

## 会よりのお知らせ

### ○昭和60年度総会

昭和60年度総会は昭和60年3月29日(金)に東京の青山学院大学渋谷校舎において開催されました。幹事長挨拶に続き、下記の昭和59年度事業報告、昭和60年度事業計画、昭和59年度会計報告および昭和60年度会計予算案が提出され、承認されました。引き続いて同会場場で昭和59年度光学論文賞授賞式が行なわれ、鈴木章義氏(キャノン)ならびに中沢正隆氏(電電公社茨城通研)が授賞されました。また、鈴木章義氏による光学論文授賞記念講演会が行なわれました。

### ○昭和59年度事業報告

昭和59年1月1日～12月31日

#### 1. 機関誌

「光学」第13巻第1～6号、総ページ数535  
地方特集 第3号(中部)

#### 2. 講演会、講習会

参加者数

|                    |           |      |
|--------------------|-----------|------|
| 第17回光学5学会関西支部連合講演会 | 1月27日     | 104名 |
| 微小光学特別セミナー         | 3月13～14日  | 125名 |
| 昭和59年度光学懇話会春季講演会   | 5月18日     | 44名  |
| 第9回光学シンポジウム        | 6月5日      | 147名 |
| 昭和59年度光学懇話会関西講演会   | 10月11日    | 80名  |
| 第1回色彩工学コンファレンス     | 11月20～21日 |      |
| 第15回画像工学コンファレンス    | 11月26～28日 |      |

#### 3. 見学会

|                   |        |
|-------------------|--------|
| KDD研究所            | 5月18日  |
| 大阪大学レーザー核融合研究センター | 10月11日 |

#### 4. 研究グループ

生理光学  
ホログラフィック・ディスプレイ  
微小光学  
光計測  
光コンピュータ

#### 5. 幹事会、委員会

|         |    |
|---------|----|
| 幹事会     | 3回 |
| 常任幹事会   | 5回 |
| 編集委員会   | 6回 |
| 文献抄録委員会 | 6回 |

#### 6. 会員数(1984年12月17日現在)

1,527名(A会員761名,B会員697名,特別会員69),  
賛助会員48

### ○昭和60年度事業計画

昭和60年1月1日～12月31日

#### 1. 機関誌

「光学」(KOGAKU; Japanese Journal of Optics)  
第14巻第1～6号, 地方編集 第3号(関西)

#### 2. 講演会、講習会

参加者数

|                           |            |     |
|---------------------------|------------|-----|
| 第11回冬期講習会                 | 1月31日～2月2日 | 85名 |
| 第18回光学5学会関西支部連合講演会        |            |     |
| 「光工学を支える薄膜技術」             | 2月1日       | 78名 |
| 微小光学特別セミナー                | 5月14～15日   |     |
| 「新しい展開を迎えた光集積回路の基礎と応用」    |            |     |
| 昭和60年度春季講演会               | 5月24日      |     |
| 第10回光学シンポジウム              | 6月14日      |     |
| 第22回サマー・セミナー              | 8月21日～23日  |     |
| 「光ファイバセンサの基礎と応用」          |            |     |
| 昭和60年度関西講演会               | 9月30日      |     |
| 第2回色彩工学コンファレンス            | 11月19日～20日 |     |
| 第16回画像工学コンファレンス<br>(幹事学会) | 12月10日～12日 |     |

#### 3. 見学会

|            |       |
|------------|-------|
| 放射線医学総合研究所 | 5月24日 |
|------------|-------|

#### 4. 研究グループ

生理光学  
ホログラフィック・ディスプレイ  
微小光学  
光計測  
光コンピュータ

#### 5. 幹事会、委員会

|         |          |
|---------|----------|
| 幹事会     | 3回       |
| 常任幹事会   | 6回(1回追加) |
| 編集委員会   | 6回       |
| 文献抄録委員会 | 6回       |

#### 6. その他

|             |         |
|-------------|---------|
| 光学懇話会会員名簿作成 | 10月(予定) |
|-------------|---------|

○昭和59年度会計決算報告

昭和59年1月1日～12月31日

| 大 科 目             | 中 科 目               | 予 算<br>(千円) | 実 績(円)     | 備 考   |
|-------------------|---------------------|-------------|------------|---|
| (収入の部)            |                     |             |            |   |
| 会 費 収 入           | 分 科 会 会 費           | 7,260       | 8,781,000  | 個人会員 1,458名<br>特別会員 69名                     |
| 事 業 収 入           | 講 習 会 収 入           | 1,890       | 2,503,500* | 未収会費 809,350円含む                             |
|                   | 研 究 会 "             | 0           | 0          | *[微小光学セミナー 2,373,500円<br>光学シンポジウム 130,000円] |
|                   | 別 刷 代 "             | 550         | 1,563,408  |   |
|                   | 計                   | 2,440       | 4,066,908  |   |
| 雑 収 入             |                     | 400         | 486,327    |   |
| そ の 他 収 入         | 広 告 料 収 入           | 1,200       | 1,777,800  |   |
| 引 当 金 戻 入         | 講 習 会 引 当 金         | 1,000       | 591,993    | 前期引当金残                                      |
|                   | 回 収 不 能 引 当 金       | 500         | 172,700    | "   |
|                   | 分 科 会 維 持 引 当 金     | 600         | 2,324,425  | "   |
| 一般会計補助受入収入        | 分 科 会 賛 助 会 費 還 元 金 | 3,552       | 3,392,000  | 40,000円×80%×106口                            |
|                   | 給 与 補 助 額           | 3,310       | 3,310,000  | 学会担当者負担分                                    |
| 収 入 合 計           |                     | 20,262      | 24,903,153 |   |
| (支出の部)            |                     |             |            |   |
| 管 理 費             | 給 料 手 当             | 3,330       | 3,335,840  | 学会担当者負担分, アルバイター手当                          |
|                   | 諸 印 刷 費             | 40          | 146,444    | コピー代, 宛名ラベル                                 |
|                   | 諸 経 費               | 1,200       | 1,146,501  | 交通費, 会議費, 通信費, 振込手数料他                       |
|                   | 本学会事務費分担手数料         | 769         | 819,000    | 事務手数料分担金                                    |
|                   | 計                   | 5,339       | 5,447,785  |   |
| 講 習 会 事 業 費       | 給 料 手 当             | 59          | 82,000     |   |
|                   | 諸 印 刷 費             | 910         | 917,135    |   |
|                   | 諸 経 費               | 921         | 1,469,707  |   |
|                   | 本学会事務費分担手数料         | 50          | 56,200     |   |
|                   | 計                   | 1,940       | 2,525,042* | *[微小光学セミナー 2,365,398円<br>光学シンポジウム 159,644円] |
| 会 誌 出 版 事 業 費     | 給 料 手 当             | 600         | 847,293    | 編集手当  |
|                   | 諸 印 刷 費             | 7,543       | 9,233,695  | 13巻1号～6号                                    |
|                   | 諸 経 費               | 1,100       | 1,189,473  | 謝礼金, 交通費, 会議費, 消耗品費他                        |
|                   | 発 送 通 信 費           | 960         | 735,515    | 本誌, 別刷, 12巻1～6号の発送費<br>295,070円を含む          |
|                   | 計                   | 10,203      | 12,005,976 |   |
| そ の 他 事 業 費       |                     | 350         | 251,000    | 研究グループ40,000円×4, 光学五学会<br>関西                |
| 講 習 会 引 当 金 繰 入   |                     | 1,000       | 2,000,000  | サマーセミナーより                                   |
| 回 収 不 能 引 当 金 繰 入 |                     | 700         | 50,000     | 未収会費  |
| 支 出 合 計           |                     | 19,532      | 22,279,803 |   |
| 収 支 差 額           |                     | 730         | 2,623,350  | (分科会維持引当金対象額)                               |

保有備品：スライドプロジェクター 2台  
スクリーン 1台  
テープレコーダー 1台  
ワイヤレスマイク 1本

書棚 1架  
賞状盆 1枚  
ベル 1個

## ○昭和60年度会計予算

昭和60年1月1日～12月31日

| 大 科 目             | 中 科 目               | 金額(千円) | 備 考                     |
|-------------------|---------------------|--------|-------------------------|
| (収入の部)            |                     |        |                         |
| 会 費 収 入           | 分 科 会 会 費           | 8,206  | 6千円×1,300名 未収会費計上額600千円 |
| 事 業 収 入           | 講 習 会 収 入           | 4,900* | *「冬期講習会 2,200千円         |
|                   | 研 究 会 "             | 0      | サマーセミナー 2,550千円         |
|                   | 別 刷 代 "             | 550    | 光学シンポジウム 150千円          |
|                   | 計                   | 5,450  |                         |
| 雑 収 入             |                     | 150    | バックナンバー, 利息             |
| そ の 他 収 入         | 広 告 料 収 入           | 1,400  | (14巻1～6号)               |
| 引 当 金 戻 入         | 講 習 会 引 当 金         | 1,000  | 前期引当繰入額                 |
|                   | 回 収 不 能 引 当 金       | 500    | "                       |
|                   | 分 科 会 維 持 引 当 金     | 500    | "                       |
| 一般会計補助受入収入        | 分 科 会 賛 助 会 費 還 元 金 | 3,264  | 40千円×80%×102口           |
|                   | 給 与 補 助 額           | 2,138  | 学会担当者負担分                |
| 収 入 合 計           |                     | 22,608 |                         |
| (支出の部)            |                     |        |                         |
| 管 理 費             | 給 料 手 当             | 2,188  | 学会担当者負担分, アルバイター手当      |
|                   | 諸 印 刷 費             | 70     |                         |
|                   | 諸 経 費               | 1,200  | 旅費, 通信費, 消耗品費, 会議費他     |
|                   | 本学会事務費分担手数料         | 612    | 事務手数料分担金                |
|                   | 計                   | 4,070  |                         |
| 講 習 会 事 業 費       | 給 料 手 当             | 80     |                         |
|                   | 諸 印 刷 費             | 2,000  |                         |
|                   | 諸 経 費               | 2,820  | *「冬期講習会 1,820千円         |
|                   | 本学会事務費分担手数料         | 120    | 光学シンポジウム 430千円          |
|                   | 計                   | 5,020* | サマーセミナー 2,750千円         |
|                   |                     |        | 春季講演会 10千円              |
|                   |                     |        | 関西講演会 10千円              |
| 会 誌 出 版 事 業 費     | 給 料 手 当             | 600    | 編集手当14巻1～6号             |
|                   | 諸 印 刷 費             | 7,500  | 14巻1～6号                 |
|                   | 諸 経 費               | 1,050  | 通信費, 謝礼金, 消耗品費, 会議費     |
|                   | 発 送 通 信 費           | 900    |                         |
|                   | 計                   | 10,050 |                         |
| そ の 他 事 業 費       |                     | 390*   | *「研究グループ 40千円×5         |
| 講 習 会 引 当 金 繰 入   |                     | 1,000  | 論文賞経費 150千円             |
| 回 収 不 能 引 当 金 繰 入 |                     | 390    | 「他分担金 40千円              |
|                   |                     |        | 未収会費                    |
| 支 出 合 計           |                     | 20,920 |                         |
| 収 支 差 額           |                     | 1,688  | (分科会維持引当金対象額)           |

## ○投稿規定, 執筆要項の改訂

機関誌「光学」の投稿規定と執筆要項の改訂を行ないました(本号別掲)。昭和60年8月1日以降の受理分から適用しますので, 熟読の上, 執筆されるようお願いし

ます。

## ○第116回幹事会

昭和60年3月26日(火)に東京, 虎ノ門の第9森ビルにおいて開催され, 「光学」の編集, 講演会・講習会

の計画, 昭和60年度総会への提出議案などについて報告と審議が行なわれました。

○昭和59年度第6回編集委員会

昭和60年3月6日(水)に東京, 本郷の学士会分館において新旧編集委員が出席して開催され「光学」の各号編集状況と企画などについて報告と審議が行なわれました。

○第2回色彩工学コンファレンス論文募集のお知らせ

昭和60年11月19日(火), 20日(水)に東京, 丸の内公園の科学技術サイエンスホールにおいて開催予定の第2回色彩工学コンファレンス(第31回光学4学会連合講演会)の論文を募集をしています。詳細は2号巻末綴込みの論文募集をご覧のうえ, お早めに講演申込みをしてください。締切は7月6日(土)です。

○第16回画像工学コンファレンス論文募集のお知らせ

昭和60年12月10日(火)~12日(木)に東京, 大手町の農協ホールにおいて開催予定の第16回画像工学コンファレンスの論文を募集しています。詳細は2号巻末綴込みの論文募集をご覧のうえ, お早めに講演申込みを

してください。締切は7月8日(月)です。

○昭和60年度光学関西講演会

今年度の光学関西講演会を下記のとおり開催いたします。日程は応用物理学会秋季講演会(京都大学)の前日にしてありますので, 多数参加くださいますようご案内申し上げます。

日 時: 昭和60年9月30日(月) 13:30-16:00

場 所: 京都大学工学部電気総合館中講義室  
京都市左京区吉田本町(地図参照)

電話 075-751-2111

主 催: 応用物理学会光学懇話会・応用光学懇談会  
プログラム: 講演「光増幅機能素子—光増幅と光安定—」

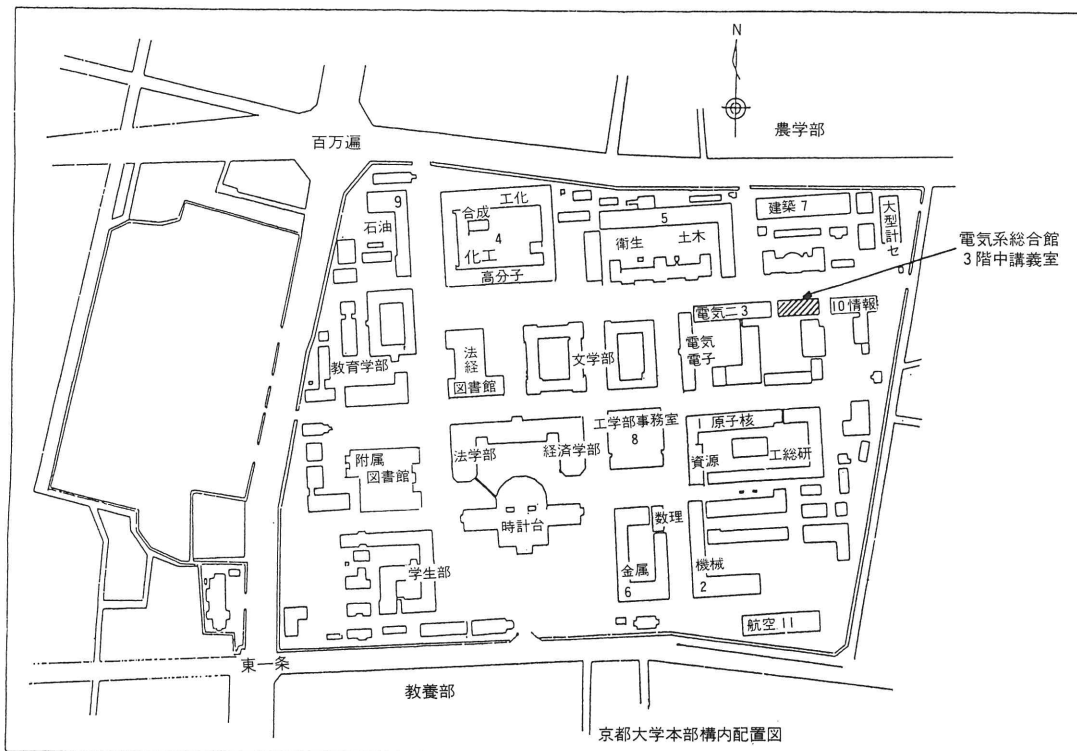
京都大学工学部電気工学教室 佐々木昭夫

なお, 講演終了後, 希望者は電気工学教室・佐々木研究室(光増幅機能素子, 液晶型ディスプレイなど)を見学できます。

参加費: 無料

交 通: 国鉄京都駅より, 地下鉄烏丸今出川乗換, 市バス203, 201系統百万遍下車, または直接市バス17, 206系統百万遍下車, 17系統のりば八条口。

阪急電車河原町より市バス17, 3系統百万



遍下車.

京阪電車京阪四条より市バス17, 201系統  
百万遍下車.

問合せ先: 〒565 吹田市山田丘 2-1

大阪大学工学部応用物理学教室 一岡芳樹  
電話 06-877-5111 内線 4664

### ○光コンピュータ研究グループよりのお知らせ

#### ●第7回光コンピュータ研究会の報告

昭和60年3月30日(土)に青山学院大学渋谷校舎において春の応用物理学会のインフォーマルミーティングとして40名の参加のもとで開催しました. 中心テーマは「干渉を利用した光演算」(北大工・今井 洋, 大塚喜弘)で原理, デバイス, 応用にわたるさまざまな議論がなされました. 参加者一人一人のコメントの後, Optical Computing 国際会議の報告と第9回研究会のプログラム等が提案され承認されました.

#### ●第9回光コンピュータ研究会の予定

主 催: 応用物理学会光学懇話会光コンピュータ研究グループ

日 時: 昭和60年7月12日(金)~13日(土)

場 所: 静岡県伊豆長岡町  
静岡県農業団体健康保健組合  
けんば保養所

参加費: 12,000円(宿泊費を含む)

問合せ先: 〒157 東京都世田谷区砧 1-10-11  
NHK放送技術研究所 滝沢國治  
電話 03-415-5111 内線 537

### ○生理光学研究グループよりのお知らせ

#### ●昭和60年度夏期生理光学研究会の予定

期 日: 昭和60年7月22日(月)~24日(水)  
(2泊3日)

場 所: 箱根 静雲荘  
神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1320

内 容: ●特別講演「人間の視覚と人工の視覚」  
“人間の視覚パターン処理における同時性” 製品科学研究所 齋田真也  
“テレ・イグジスタンス技術”(遠隔臨場制御技術) 機械技術研究所 舘 暉  
“オプティカルフロー利用に関する人工の眼と人間の眼”

電子技術総合研究所 森 晃徳

●一般講演, 閑話, その他

問合せ先: 〒227 横浜市緑区長津田町 4259

東京工業大学大学院総合理工学研究科  
池田光男, 内川恵二  
電話 045-922-1111 内線 2524

### ○微小光学研究グループよりのお知らせ

#### ●第16回微小光学研究会の報告

昭和60年4月25日(木)に, 東京大学生産技術研究所(六本木)において, 50名の参加のもとで開催いたしました. 国際会議の報告が3件, 研究報告が5件ありました. 研究報告は, 昭和60年春季第32回応用物理学会の中から, とくに微小光学に関係の深いテーマを取りあげました. 当日の資料は研究グループ機関誌「MICRO-OPTICS NEWS」Vol. 3, No. 2に掲載してあります.

(リコー 小椋行夫)

#### ●第17回微小光学研究会の予定

日 時: 昭和60年7月18日(木) 9:00~17:00

場 所: (株)東芝 本社  
東京都港区芝浦 1-1-1 東芝ビルディング  
国電浜松町駅下車 徒歩2分

テ ー マ: 光通信・そのシステムと光学素子

- 内 容: 1. Introductory Talk 宮下 (NTT)  
2. レンズ素子の現状と動向  
3. 受発光素子 伊賀 (東工大)  
4. 受動素子 平尾 (日立)  
5. 受動素子 福島, 白崎 (富士通研)  
6. 光ファイバーケーブル  
(1) OH吸収 星川 (住電)  
(2) 赤外ファイバー 最上 (古河)  
(3) 1.55  $\mu\text{m}$  零分散

未定 (コーニング)

7. 海底通信システム技術と光部品  
未定 (KDD)  
8. 長距離通信システム技術と光部品  
橋本 (NTT)  
9. OA用光LAN 国京 (東芝)  
10. 加入者系システム技術と光部品  
橋本 (NTT)  
11. 将来の光通信システムとその部品  
(1) コヒーレント通信システムと超高速光通信 峯村 (日電)  
(2) 波長多重通信システムと分波素子  
古田 (富士通)  
(3) 光増幅器 鷺尾 (日電)

参加費：2,000円  
 注：演題および講演者は変更することがあります。  
 問合せ先：〒160 東京都新宿区西新宿 2-1-1  
 新宿三井ビル ICC国際情報センター内  
 微小光学事務局 野口  
 電話 03-342-1981

○光計測研究グループのお知らせ

●第20回光計測研究会の報告

昭和60年4月22日(月)に東京大学生産技術研究所において16名の参加を得て「光ファイバを用いた非接触表面検査」(三豊製作所, 深津拓也), 「光学的表面粗さ測定」(金沢大工, 河野嗣男)の講演があり, 活発な質疑討論が行なわれました。(埼玉大工 豊岡 了)

●第21回光計測研究会の予定

日時：昭和60年6月24日(月)14:00~17:00

場所：東京大学生産技術研究所 第一部輪講室  
 東京都港区六本木 7-22-1

地下鉄千代田線乃木坂駅下車 徒歩2分

演題：1. 「光音響映像法」東大生研 伊藤雅英  
 2. 「測長用干渉計の最近の話題」

計量研究所 松本弘一

参加費：300円(お茶, 資料代)

問合せ先：〒338 埼玉県浦和市下大久保 255  
 埼玉大学工学部応用物理学講座 豊岡 了  
 電話 0488-52-2111 内線 2241

○新入会員

個人

| 会員番号   | 氏名    | 所属               |
|--------|-------|------------------|
| A 2079 | 長野 明彦 | キヤノン(株)カメラ開発センター |
| 2080   | 沼田 智  | 神戸大学大学院          |
| 2081   | 川中 重喜 | 九州工業大学電子工学科      |
| 2082   | —     | —                |
| 2083   | 水野 透  | 日本電装(株)          |
| 2084   | 深野 純一 | 日産自動車(株)中央研究所    |
| 2085   | 山内 和久 | (株)クラレ倉敷工場       |
| 2086   | 川田 彰  | セントラル硝子(株)東京研究所  |
| 2087   | 立野 公男 | (株)日立製作所中央研究所    |
| 2088   | 小楠 和彦 | 静岡大学工学部          |
| 2089   | 冬木 健二 | マミヤ機器販売(株)       |
| 2090   | 倉田 忠雄 | 関西大学工学部          |

|        |       |                     |
|--------|-------|---------------------|
| 2091   | 芳野 寿和 | 東京光学機械(株)           |
| 2092   | 若林 秀樹 | 東京大学大学院             |
| 2093   | 藤本 一光 | 日本科学技術情報センター        |
| 2094   | 浦田 研哉 | 日本ピーシーシステムズ(株)      |
| 2095   | 永田 信一 | 大日本スクリーン製造(株)       |
| 2096   | 橋 昭弘  | パイオニア(株)所沢工場        |
| 2097   | 山田満喜男 | オリンパス光学工業(株)八王子工場   |
| 2098   | 酒井 朋子 | 千葉大学工学部             |
| 2099   | 羽田 典久 | 富士写真フィルム(株)富士宮研究所   |
| 2100   | 近江 成明 | H O Y A (株)技術研究所    |
| 2101   | 小相沢 久 | 古河電気工業(株)千葉工場       |
| 2102   | 吉田 純一 | 東京航空計器(株)           |
| 2103   | 百尾 和雄 | 松下電器産業(株)           |
| 2104   | 佐藤 秀昭 | 鶴岡工業高等専門学校          |
| 2105   | 大橋 三男 | (株)柏木研究所            |
| 2106   | 川田 勝  | (株)島津製作所            |
| 2107   | 唐沢 和典 | (株)リコー              |
| 2108   | 野田 幸夫 | (株)ゴールドバグラボラトリー     |
| B 1504 | 鈴木 政春 | アイホン(株)             |
| 1505   | 野田 健一 | 東京農工大学工学部           |
| 1506   | 渡辺 文也 | (株)東芝電子デバイスエンジニアリング |
| 1507   | 高橋 英郎 | 芝浦工業大学工学科           |
| 1508   | 日野 基次 | 電気興業(株)             |
| 1509   | 八田 正和 | 製鉄化学工業(株)別府製造所      |
| 1510   | 渡辺 勢夫 | 三菱電機(株)応用機器研究所      |
| 1511   | 久保 高啓 | 同上                  |
| 1512   | 小林 盛男 | NTT 茨城電気通信研究所       |
| 1513   | 小松 忠紀 | (株)東芝生産技術研究所        |
| 1514   | 大木 裕  | ソニー(株)              |
| 1515   | 入江 泰三 | 東京理科大学電気工学科         |
| 1516   | 真鍋 隆  | 早稲田大学理工学部           |
| 1517   | 中島 尚男 | 光技術共同研究所            |
| 1518   | 志村 努  | 東京大学生産技術研究所         |
| 1519   | 石川 弘美 | 富士写真フィルム(株)         |
| 1520   | 小倉繁太郎 | キヤノン(株)中央研究所        |
| 1521   | 金 倫杰  | 大韓民国清州教育大学物理        |
| 1522   | 吉村 徹三 | 富士通厚木研究所            |

|                    |       |                   |                    |       |                    |
|--------------------|-------|-------------------|--------------------|-------|--------------------|
| 1523               | 藤井 陽一 | 東京大学生産技術研究所       | 1547               | 阿部 寛治 | 三井東庄化学(株)          |
| 1524<br>(A-1915ヨリ) | 山田 良行 | ダイキン工業電子技術センター    | 1548               | 広瀬 純夫 | 三井東庄化学(株)          |
| 1525<br>(A-1875ヨリ) | 小枝 勝  | 島津製作所(株)第1科学計測事業部 | 1549               | 中野 秀俊 | 東京大学工学部            |
| 1526               | 田中 順  | 富士化学工業(株)         | 1550               | 黒田 輝  | 神戸大学工学部            |
| 1527               | 有賀 亨  | キャノン(株)生産技術研究所    | 1551               | 小池 文雄 | 山武ハネウエル(株)技術研究センター |
| 1528               | 塚本 弘範 | (株)岡村製作所          | 1552               | 村山 仁  | 昭和電線電纜(株)          |
| 1529               | 宮本 詔文 | (株)日立製作所日立研究所     | 1553               | 中西 八郎 | 繊維高分子材料研究所         |
| 1530               | 松浦 真  | アイワ(株)川口センター      | 1554               | 木下 知之 | ウエスト電気(株)          |
| 1531               | 池田 孝  | (株)工学情報センター       | 1555               | 中島 隆  | NTT 茨城電気通信研究所      |
| 1532               | 村上 昭年 | 九州大学工学部           | 1556<br>(A-2082ヨリ) | 中川 清  | 神戸大学大学院            |
| 1533               | 前田 三男 | 九州大学工学部           | 1557<br>(A-1930ヨリ) | 辻 誠治  | 大日本電線(株)           |
| 1534               | 佐藤 建  | 三菱電気(株)材料研究所      | 1558<br>(A-1805ヨリ) | 本宮 一興 | キャノン(株)生産技術研究所     |
| 1535               | 小田切雄一 | 日本電気(株)           | 1559<br>(A-1942ヨリ) | 射場本正彦 | (株)日立製作所日立研究所      |
| 1536               | 大山 永昭 | 東京工業大学像情報工学研究施設   |                    |       |                    |
| 1537               | 大川原一秀 | 日本電気(株)           |                    |       |                    |
| 1538               | 石川 純  | 計量研究所             |                    |       |                    |
| 1539               | 井田 光一 | キャノン(株)           |                    |       |                    |
| 1540               | 松本 宏一 | 日本光学工業(株)         |                    |       |                    |
| 1541               | 岡本 和弘 | 神戸大学大学院           |                    |       |                    |
| 1542               | 潮田 資勝 | 東北大学電気通信研究所       |                    |       |                    |
| 1543               | 松田耕一郎 | 堀場製作所(株)          |                    |       |                    |
| 1544               | 吉岡 泰規 | 鐘淵化学工業(株)中央研究所    |                    |       |                    |
| 1545               | 早田日出一 | 住友金属鉱山(株)中央研究所    |                    |       |                    |
| 1546               | 高橋 正博 | 沖電気工業(株)基盤技術研究所   |                    |       |                    |

## 特別会員

|         |   |
|---------|---|
| 特別会員 69 | TECHNICAL INFORMATION SERVICE<br>American Institute of Aeronautics & Astronautics, Inc. |
| 70      | T D K (株) 開発研究所図書室  |
| 71      | 関西大学図書館   |
| 72      | 富士通川崎工場技術管理本部図書室  |
| 73      | 日本航空電子工業(株)   |

## 応用物理学会光学懇話会規則

昭和 27 年 4 月 1 日施行 昭和 50 年 1 月 1 日一部改正 昭和 57 年 1 月 1 日一部改正  
 昭和 28 年 4 月 3 日一部改正 昭和 50 年 5 月 17 日一部改正  
 昭和 47 年 1 月 1 日一部改正 昭和 52 年 1 月 1 日一部改正

応用物理学会光学懇話会規則を次の通り定める。本規則に定めのない事項については応用物理学会分科会規定の定めるところによる。

### 1. 名 称

本分科会は、応用物理学会光学懇話会と称する。

### 2. 目 的

本分科会は、光学に関する研究の推進および技術の向上をはかることを目的とする。

### 3. 事 業

本分科会は前項の目的を達成するために次の事業を行なう。

- 1) 分科会機関誌「光学」を隔月一定の日に発行し会員に配布する。
- 2) 講演会、研究会、講習会、見学会などを開催する。
- 3) 光学に関する図書を企画編集する。
- 4) その他本分科会の目的達成に必要な事業を行なう。

### 4. 会 員

- 1) 本分科会は前項の目的に賛同する応用物理学会会員（B会員）、本分科会が加入を認め学会理事会がそれを承認した者（A会員）および本分科会が加入を認め学会理事会がそれを承認した機関（特別会員）をもって組織する。
- 2) A会員、B会員および特別会員の資格審査は分科会の会員資格審査基準にのっとるものとする。
- 3) 分科会員は本分科会の事業に限り参加することができる。
- 4) 分科会員（特別会員を含む）は分科会機関誌「光学」の配布を受ける。
- 5) 本分科会の名誉を毀損し、または本分科会の目的に反するような行動があったとき、および会費滞納が連続2ヶ年以上になる場合は、分科会は学会理事会の承認を得て除名することができる。

### 5. 会 費

- 1) 分科会員は次の分科会費を12月末日までに前納するものとする。

|       |    |         |
|-------|----|---------|
| A 会 員 | 年額 | 6,000 円 |
| B 会 員 | 年額 | 6,000 円 |
| 特別会員  | 年額 | 7,000 円 |

- 2) 会費を6ヶ月以上滞納した時は機関誌の発送を停止する。

### 6. 役 員

- 1) 本分科会に次の役員をおく。

幹事 若干名（うち幹事長1名、常任幹事若干名）

但し、幹事長の要請により幹事会が必要と認めたときは副幹事長（2名以内）をおくことができる。

- 2) 幹事長は会務を総括し、学会理事会に出席して会務を報告し、規則の制定および改定、役員を選任、事業計画、事業報告、収支予算決算、その他重要事項の承認を求める。

副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはその職務を代行する。

幹事は幹事会を構成し、重要事項を審議決定する。

常任幹事は常任幹事会を構成し、庶務、会計、編集その他の常務を処理する。

- 3) 役員を選任は次による。但し、学会理事会の承認を要する。

幹事は会員の互選により、幹事長は幹事の互選により決める。

副幹事長及び常任幹事は幹事会の議を経て、幹事長が委嘱する。

- 4) 幹事長および副幹事長は学会正会員でなければならない。

幹事および常任幹事の各半数以上は学会正会員でなければならない。

- 5) 役員任期は次の通りとする。

幹事長 2年（再任できない）

副幹事長および常任幹事 2年以内（連続して再任はできない）

幹事 2年（但し1年毎にその半数を改選する）

### 7. 会 計

分科会の会計は学会会計に包括処理される。但し特別会計とする。分科会の資産は学会に帰属する。

### 8. 改 訂

幹事会は必要と認めたときは学会理事会の承認を得て本規則を改訂することができる。

付則 本規則は昭和59年1月1日より実施する。



## 「光学」投稿規定

昭和47年2月19日 制定

昭和57年2月19日 改訂

昭和60年4月1日 改訂

「光学」は(社)応用物理学会光学懇話会が隔月に発行する機関誌で、光学および光技術に関する原著論文、解説記事その他、光学懇話会会員に必要な記事を掲載します。原著論文は会員が自由に投稿することができます。ただし投稿された原稿の掲載の可否は編集委員会で審議します。

なお、解説記事等の執筆は編集委員会から依頼します。

### 1. 内 容

#### 1.1 原著論文

**1.1.1 研究論文:** 光学および光技術に関係ある諸部門の原著論文。他誌に発表または発表予定の原著論文と同一主題であっても、その中の光学および光技術に関する部分の記述ないし検討内容が未発表のものであればよい。長さは原則として図・表を含め原稿用紙31枚(刷上り8ページ)以内。

**1.1.2 研究速報:** 光学および光技術上の新しい提案、討論または速報的内容をもつ短い原著論文で、図・表を含めて原稿用紙11枚(刷上り3ページ)以内。

**1.1.3 技術報告:** 光学および光技術の研究開発上新たに得られた装置および諸データなどに関する報告。研究実施上における経験も記すことが望ましい。図・表を含め原稿用紙31枚(刷上り8ページ)以内。

#### 1.2 解説記事

**1.2.1 総合報告:** 特定分野の最近の進歩を広い視野から総合的にまとめた報告。文献が整備されていることが望ましい。長さは原則として図・表を含め原稿用紙39枚(刷上り10ページ)以内。

**1.2.2 解 説:** 特定分野の最近の成果をわかりやすく解説する。基本的な文献が整備されていることが望ましい。図・表を含め原稿用紙23枚(刷上り6ページ)以内。

**1.2.3 最近の技術から: 最近進歩の目覚しいあるいは**

注目されている技術の概観を、特に光学産業との関連にもふれ、タイムリーに伝える。図・表を含め原稿用紙7枚(刷上り2ページ)以内。

**1.2.4 講 義:** 光学および光技術の特定の分野について体系的にわかりやすく講義する。図・表を含め原稿用紙31枚(刷上り8ページ)以内。

#### 1.3 その他の記事

**1.3.1 巻 頭 言:** 会員にとって指針となるような意見および見解の発表。原稿用紙2枚(刷上り1ページ)以内。

**1.3.2 さ ろ ん:** 学会報告、会員の意見、質疑応答など会員相互の交流に役立つ記事。

**1.3.3 書 評:** 光学および光技術に関連のある内外の新刊書の紹介。

**1.3.4 文献抄録:** 文献抄録委員会において紹介された文献の抄録。

**1.3.5 会よりのお知らせ:** 光学懇話会の活動状況報告および関係行事の予告等。

**1.3.6 光学関連会合予定表:** 光学および光技術に関連のある会合および行事等の開催日時、場所等の案内。

### 2. そ の 他

原稿が規定ページ数を超過した場合、編集委員会が著者に対し短縮を要請することがあります。

#### 2. 投稿の手続

**2.1** 投稿者は本会専用の原稿用紙を用い執筆要項に従って書いた原稿に投稿票をつけ、コピー1部とともに下記の光学編集局に提出して下さい。

〒113 東京都文京区湯島 2-30-9

(財)学会誌刊行センター分室内

「光学」編集局

**2.2** 原稿用紙、投稿票、投稿規定および執筆要項は編集局に請求すれば送付します。原稿用紙の代金は1枚5円(郵便切手でよい)。送料は実費。依頼原稿の執筆者には編集局より送付します。

### 3. 著 作 権

本誌に掲載された記事の著作権および版権は、(社)応用物理学会光学懇話会に帰属します。ただし、本会が必要と認めるとき、あるいは外部から引用の申請ならびに版権使用の申請があったときは、編集委員会で審議し、転載ならびに版権使用を認めることがあります。

## 「光学」執筆要項

### 1. 表題および体裁

- 1.1 原稿用紙第1ページに、下記の例に従って、つぎの必要事項を書く。

表題, 著者名, 研究機関とその所在地, 受理日付

ただし, 受理年月日は本会で記入するからあけておく。また, 英文の項目はすべてタイプで打つ。

(例) コヒーレント光源の回折像

戸田 太郎\*・山中 次郎\*\*

\* 大阪大学工学部応用物理学教室 〒565 吹田市山田丘 2-1

\*\* 日東カメラ(株)研究部 〒105 東京都港区吉田町 1-2-5

( 年 月 日 受理)

Diffraction Images of Coherent Sources

Taro TODA\* and Jiro YAMANAKA\*\*

\* Department of Applied Physics, Faculty of Engineering, Osaka University,  
2-1, Yamadaoka, Suita 565

\*\* Research Laboratory, Nitto Camera Co., Inc., 1-2-5, Yoshida, Minato-ku, Tokyo 105

- 1.2 表題はできるだけ簡潔に書く。やむを得ず表題の語数が日本語で18字を越えるときは、省略名をその表題の下に添える。

(例) (和文題名) 遠赤外用エバポログラフによる遠赤外レーザーのモードパターンの観察

(省略題名) エバポログラフによるレーザーパターン

- 1.3 研究場所が現在の所属と異なるときは、そのことを脚注に書く。

### 2. 英文要旨

- 2.1 原著論文(研究論文, 研究速報, 技術報告)には英文要旨(以下 synopsis と称する)をつける。Synopsis の語数は研究論文では150語以内, 研究速報, 技術報告では100語以内とする。
- 2.2 Synopsis にはこれに対応する日本文要旨を添える。和英両要旨の内容はよく対応していなければならない。日本文要旨は synopsis の英文を閲読するときの参考にするもので, 印刷はされない。
- 2.3 原稿用紙第2ページに厚手のタイプ用紙に synopsis をタイプし, 第3ページに日本要旨を書く。
- 2.4 Synopsis は抄録誌などにそのまま掲載されることがあるので, 十分注意して丁寧に書く。「投稿の手引」(後出の10. その他の項参照)の synopsis の書き方の項などを参考にする。

### 3. 本文

- 3.1 本文は, 原著論文(研究論文, 研究速報, 技術報告)では原稿用紙第4ページから書く。要旨を必要としない解説記事等は原稿用紙第2ページから書く。
- 3.2 論文項目の分け方は, 大項目を1., 中項目を1.1, 小項目を1.1.1とする(本執筆要項の項の分け方を参照する)。
- 3.3 本文は楷書で, 黒色のペン字横書きとし(ワープロ使用も可), 原則として常用漢字新仮名づかいを用いる。術語は学会および文部省で制定されたものを用いることが望ましい。人名, 日本語になりきっていない術語などは原則として原綴で書く(たとえば, 学術用語集, 物理学編(大日本図書株式会社発行)を参照)。

(例) ポアソン分布している……, パラメータを使って……, Bright によれば……, プラストウェーブ (blast wave) が起こり……,

- 3.4 欧語の原綴を日本語に混用するときは, なるべく英語を用い, 英, 仏, 独, 露語などの混用を避ける. 日本語に英単語を混用する場合には原綴の普通名詞が文頭に来た場合には, 最初の文字を大文字にし, 文中にある場合には全部小文字とする. その他の場合もこれに準ずる. 欧字は活字体で書き, 大文字は1マスに1文字, 小文字は1マスに2文字の割合とし, 単語の切れ目は1マスあける.

(例) |S|ta|ti|c| |E|le|ct|ri|fi|ca|ti|on| |of| |S|ol|id|

- 3.5 単位はできるだけ国際単位系 (SI) を用い, CGS 単位系と併用しないほうが望ましい.
- 3.6 文中ボールドとすべき文字は A のように文字の下に ~~~ (朱書), イタリックとすべき文字は C のように文字の下に — (朱書), ボールド・イタリックとすべき文字は n のように文字の下に ~~~ (朱書) の記号をつけて指定する (量をあらわす記号はすべてイタリック, 単位および元素記号はすべて立体とする). ギリシャ文字は明瞭に書き, とくにローマ字とまぎれやすい  $\alpha, \beta, \gamma, \eta, \kappa, \mu, \nu, \rho, \sigma, \omega$  については g (朱書) の記号で指定する. 数式は一般にイタリックで組むから, とくに立体とすべき文字記号は grad のように文字の上に  $\text{—}$  (朱書) 記号をつけて指定する.

(例)      ボールド                  イタリック                  ボールド・イタリック                  立体  
                  optical                          *optical*                          optical                          optical

### 3.7 数字, 数式

- 3.7.1 本文中の数字は2桁を1マスに書く.
- 3.7.2 本文中に挿入する数式は, 下記のように印刷に便利な記法を用い,  $e$  の肩にのる添字等は避ける.

(例)  $\frac{a}{b} \rightarrow a/b, \frac{a}{b-c} \rightarrow a/(b-c), \frac{a}{b} - \frac{c}{d} \rightarrow a/b - c/d, \frac{a}{bc} \rightarrow a/bc, \frac{1}{2}kT \rightarrow kT/2$  または  $(1/2)kT$

$$a \cos\left(\frac{x}{y}\right) \rightarrow a \cos(x/y), e^x \rightarrow \exp(x)$$

- 3.7.3 括弧の順序は [ { ( ) } ] とする.
- 3.7.4 独立した数式には必ず式番号を(1), (2)……のように示す. また数式は1行につき, 原稿用紙2~3行のスペースを取って書く. とくに  $\int, \frac{d}{dt}$  等を含む数式は3行のスペースをとる.

- 3.8 添字は  $\vee \wedge$  (朱書) で上ツキ, 下ツキを指定する.

(例)  $a^{\vee}$                    $a_{\wedge}$

- 3.9 0 (ゼロ) と O (オー), 1 (イチ) と l (エル),  $\times$  (カケル) と X (エックス),  $\varphi$  (ファイ) と  $\phi$  (プサイ) など, まぎらわしいものははっきり区別できるように書き, とくに誤られるおそれのある場合にはカナをつける. C, O, P, W, X などのように大文字との小文字との区別の困難なものについては, (大) または (小) (朱書) と指定する.
- 3.10 印刷すべき本文以外の指定や注意書きはすべて朱書する. 特殊な書体の活字をしばしば使用するときには, 本文中に適当な記号をつけて, その記号の意味を欄外に一括してもよい.
- 3.11 原稿はできるだけ簡潔に書き, 式の変換, 実験資料の呈示などが冗長にならぬように注意する.

## 4. 脚注, 引用文献

- 4.1 脚注は \*1, \*2 などの記号で示し, 原稿用紙の下欄に書く. 脚注は必要最少限に留める.
- 4.2 脚注には口頭発表の記録などは原則として書かない.
- 4.3 文献の引用は通し番号 <sup>1)</sup>, <sup>3,5)</sup>, <sup>7-10)</sup> をつけ, 論文の末尾に一括する.
- 4.4 引用文献の書き方  
 著者: 論文題名, 誌名 (略名), 巻 (年), ページの順に書く. 単行本の書名はイタリックとし, 書名の下に

— の下線を朱書する。巻数はボールドの指定 (~~~~) を朱書する。著者が複数の場合は全著者名を書き、つぎの形式にならう。

雑誌の場合：

- 1) 山田太郎：“IC 用レンズの収差”，光学，1 (1972) 25-35.
- 2) A. D. Gara and J. Upatnieks：“Real-time tracking of moving objects by optical correlation,” *Appl. Opt.*, 18 (1979) 172-178.

単行書の場合：

- 3) M. Born and E. Wolf：*Principles of Optics*, 1st ed. (Pergamon Press, New York, 1959) pp. 33-39.

Proceedings 等の場合：

- 4) N. Gibson：“Remote air pollution measurement,” *Laser Engineering and Applications Conf. Ser. 4* (Inst. Phys. Soc. London, 1971) pp. 71-80.

Proceedings が雑誌の supplement として発行されている場合：

- 5) A. Lohmann：“Holography through scattering media,” *Proceeding of the ICO Conference on Optical Methods in Measurements*, Tokyo (1974), *Jpn. J. Appl. Phys.*, 14, Suppl. 14-1 (1975) pp. 161-170.

特許関係：

- 6) 山田太郎：特公昭 60-1234.
- 7) A. G. White：U. S. Patent No. 1234567 (1982).

分担執筆による単行書：

- 8) S. White：“Birefringence,” *Optical Properties of Solids*, ed. C. Black (Univ. of Tokyo Press, Tokyo, 1980) pp. 55-60.

- 4.5 文献は原則として、一般に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献はさけること。  
(例) (文献として引用できないもの) 社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、私信等。

## 5. 図、写真および表

- 5.1 図、表中の文字は原著論文では英文、解説記事等の場合には原則として日本語で書く。
- 5.2 図面はトレース用紙または白紙に黒インクで墨入れする。コントラストのよい乾式コピー複写図は可。リコピー類の紫色複写図は不可。  
とくに著者が希望する場合、または編集部で必要と認めたときには、トレースを専門家に依頼するが、これらの場合の費用は、原則として著者の負担とする。  
図面の文字、記号はインスタントレタリング等を使用して書く(手書は不可)。ただし、依頼原稿において、文字、記号等に限り、レタリングを希望する場合は、原図でなくそのコピーに鉛筆を用いて楷書で書く(文字の指定等は 3.6, 3.8, 3.9 に準じて行なう)。
- 5.3 図および表は 1 図 1 表ずつ別紙に書き、写真は別紙にはる。原著論文は、図と写真は Fig. 1, Fig. 2 のように、表は Table 1, Table 2 のように通し番号をつける。解説記事は図 1, 表 1 のように通し番号を付ける。いずれも 1 枚ごとに著者名を入れる。図と写真との区別をせず、図で統一する。
- 5.4 図、表の用紙、写真の台紙は原稿用紙の大きさに統一する(原稿用紙にはりつけてもよい)。
- 5.5 図、表の挿入個所はおよその位置を原稿用紙の右欄外に朱記する。
- 5.6 図の説明は図の一連番号順に別紙に、原著論文では英文、解説記事等の場合は日本語でまとめる。英文は白紙にタイプで打つ。表の番号および説明は表の上に、注は表の下に書く。
- 5.7 原図の大きさは刷上りの 2~3 倍とする。図の大きさは、脇に大、中、小などと鉛筆で書いて指定する。図中の文字、記号の大きさは刷上りで、高さが 2mm 程度になる大きさと書く。

- 5.8 写真は図に準じて取り扱う。ただし大きさは刷上りとほぼ同じであることが望ましい。必ず印画紙に焼き付けたものを提出する。ネガフィルムは受け付けない。
- 5.9 著者がとくに鮮明な写真印刷を希望する場合は著者の費用負担によりアート紙に印刷する。
- 5.10 やむを得ず他の著作物から図、表あるいは写真を原形あるいは原形に近い状態で転載する場合については、後出の 10. その他を参照のこと。

## 6. 刷上りページ数の割り出し方

本会の原稿用紙は4枚で刷上り1ページになる。以下に図や表の刷上り相当ページ数の目安を示す。原稿にはページ数制限があるから、図、表を作成した場合には、そのスペースに相当する分だけ、本文原稿枚数を減らす。

### 6.1 数 式

行数の2倍と見積もる。

### 6.2 図

刷上り図の大きさはつぎの3種類とする。小：横3cm，中：横6cm，大：横12cm（縦はいずれも18cm以内）。普通大の図（刷上り6cm×6cm）は約1/6ページを占める。

図のスペースは、刷上りの縦方向の長さを  $l$  cm，図の説明を  $x$  行としたとき次の式の値の行数分とする。

小，中の図： $2l+x+1$

大の図：左右にまたがるから上式の2倍

### 6.3 表

4コラム以内の表は刷上り1/2ページ幅（25字×行数）に収まる。それ以上の大きさの表は左右2段にまたがるから、原稿用紙の行数の2倍のスペースをとる。

表のスペースは、次の式で見積もる。ただし小数点以下は切り上げる。

表の行数+横罫の数/2+3

(例)

| 結 晶     | $b$  | $e_{14}$ | $f$   |
|---------|------|----------|-------|
| 等 軸 晶 系 |      |          |       |
| (A) ZnS | 2.34 | 0.147    | 0.268 |
| ZnSe    | 2.46 | 0.049    | 0.099 |
| ZnTe    | 2.64 | 0.0284   | 0.066 |

| Mechanism     | $\mu \propto (m^*)^x T^y$ |             | $\tau \propto E^z$ | $R_H = -r/nq$ |
|---------------|---------------------------|-------------|--------------------|---------------|
|               | $x$                       | $y$         | $z$                | $r$           |
| (B) Acoustic  | -5/2                      | -3/2        | -1/2               | $3\pi/8$      |
| Optical $T$   | -3/2                      | exponential | +1/2               | 1.00 to 1.14  |
| Piezoelectric | -3/2                      | -1/2        | -1/2               | 1.00          |

上表(B)の場合  $(5+4/2+3) \times 2 = 20$  行

### 6.4 文 献

外国文献はタイプした場合は1.5倍と見積もる。

## 7. 著 者 校 正

著者校正是1回行なう。この際印刷上の誤り以外の修正，図版の修正は認められない。校正刷は受理後2日以内に返却すること。期限に遅れた場合は編集局の校正をもって校了とする。

## 8. 別 刷

別刷は25部の倍数で請求できる。別刷請求者は別刷の費用を全額負担する。別刷代金は別途定める。

## 9. 原著論文の撤回

- 9.1 審査中の論文が訂正などのために著者の手許に返されたまま6カ月を経過した場合には、その論文は撤回されたものとみなす。
- 9.2 著者がやむを得ない事情で、すでに印刷に回った論文などを撤回した場合には、著者はその実費を負担しなければならない。

## 10. そ の 他

- 10.1 他の著作物から図、表、写真あるいは文章の一部をそのまま転載する場合には、必ずその著者および発行者の許可を求めなければならない。自著の場合も発行者の許可が必要である。手続きは執筆者が行なう。
- 10.2 論文を執筆する際の一般的注意、心得については、下記を参考にするとよい。
  - 1) 「投稿の手引」(J. Phys. Soc. Jpn. 編集委員会および Jpn. J. Appl. Phys. 編集委員会編)
  - 2) 「Journal の論文をよくするために」(日本物理学会編)

## 「光学」投稿票

1. 原稿の種類 (執筆記事を○で囲んで下さい)  
 研究論文, 研究速報, 技術報告, 総合報告, 解説  
 最近の技術から, 講義, 巻頭言, さろん, 書評
2. 表題および省略題名 (和文題名が18字を越えるとき)  
 (和文題名)  
 (省略題名)  
 (英文題名)
3. 原稿用紙 枚, 図 枚, 写真 枚, 表 枚
4. 氏名 漢字およびローマ字で, 共著の場合は共著者の分も書き,  
 連絡責任者の氏名の左肩に○印を付けて下さい  
 (会員は会員番号)  
 (氏名)  
 (ローマ字)
5. 研究場所 (名称, 所在地, 電話番号)  
 〒  
 TEL  
 英文
6. 連絡責任者自宅  
 〒  
 TEL
7. 連絡先 (○で囲む) 研究場所, 自宅
8. 別刷請求部数 (25部の倍数) 部
9. 原稿は「光学」執筆要項に従って書いてありますか. とくに次の事項をチェックし, レ印を付けて下さい,  
 ゴシック・イタリック, 上ツキ・下ツキ, グリシャ文字. 大文字, 小文字などの指定を朱書しましたか  
 図, 表の挿入個所を原稿用紙の右欄外に指定し, 図, 表の1枚毎に氏名が書いてありますか  
 引用文献の書き方は執筆要項に従っていますか  
 コピー1部 (本文, 図, 表, 写真. 写真が主要な場合プリントをもう1枚) を付けましたか

光 学 関 連 会 合 予 定

| 開催日      | 名 称   | 開 催 場 所                          | 問 合 せ 先  |
|----------|---|----------------------------------|--|
| 6/23-26  | International Conference on Communication   | Chicago, USA                     | 古河電気工業(株)本社 村田 浩<br>TEL. 03-286-3416                     |
| 7/12     | 第1回光ファイバセンサワークショップ講演会   | 東京大学生産技術研究所<br>(東京, 六本木)         | 「光ファイバセンサ研究会」事務局<br>TEL. 03-508-2091                     |
| 7/12-13  | 第9回光コンピュータ研究会   | 静岡県農業団体健康保健<br>組合(静岡, 伊豆)        | NHK 放送技術研究所 滝沢國治<br>TEL. 03-415-5111 ex. 537             |
| 7/18     | 第17回微小光学研究会   | 東芝ビルディング(東京,<br>芝浦)              | 微小光学事務局 野口<br>TEL. 03-342-1981                           |
| 7/22-24  | 夏期生理光学研究会   | 静雲荘(神奈川, 箱根)                     | 東京工業大学 池田光男, 内川恵二<br>TEL. 045-922-1111 ex. 2524          |
| 7/24     | 第15回日本写真学会シンポジウム<br>「画質を考える」  | 発明会館ホール<br>(東京, 虎ノ門)             | 千葉大学工学部 三宅洋一<br>TEL. 0472-51-1111 ex. 2941               |
| 8/21-23  | 第22回サマーセミナー<br>「光ファイバセンサの基礎と応用—<br>光ファイバセンサの可能性を探る—」  | 山王閣<br>(長野, 下諏訪)                 | 京セラ(株) 大江原弘昌<br>TEL. 03-508-4370                         |
| 9/26-27  | Sixth Topical Meeting on Gradient-Index Optical Imaging Systems (GRIN '85)  | Palermo, Italy                   | 東京大学工学部 田中俊一<br>TEL. 03-812-2111 ex. 6835                |
| 9/30     | 昭和60年度光学関西講演会   | 京都大学工学部電気総合<br>館(京都市左京区)         | 大阪大学工学部 一岡芳樹<br>TEL. 06-877-5111 ex. 4664                |
| 10/1-4   | 5th International Conference on Integrated Optics and Optical Fiber Communications, 11th European Conference on Optical Communication (IOOC-ECOC '85) | Venice, Italy                    | 日本電信電話(株)武蔵野電気通信研究<br>所 畔柳功芳<br>TEL. 0422-59-2334 (山本喜久) |
| 11/19-20 | 第2回色彩工学コンファレンス<br>(第31回光学四学会連合講演会)  | 科学技術館サイエンスホ<br>ール<br>(東京, 北の丸公園) | 色彩工学コンファレンス事務局<br>TEL. 03-433-2541                       |
| 12/2-6   | ANRT/SPIE Conference on Progress in Holographic Applications  | Cannes, France                   | キャノン(株)中央研究所 松本和也<br>TEL. 0462-47-2111                   |
| 12/10-12 | 第16回画像工学コンファレンス   | 農協ホール<br>(東京, 大手町)               | 第16回画像工学コンファレンス事務局<br>TEL. 03-433-2544                   |

\*会よりのお知らせおよび光学関連会合予定欄掲載申込み先:

〒243-02 神奈川県厚木市飯山 1583 東京工芸大学工学部 伊藤進一 TEL. 0462-41-0454 ex. 145